後期臨床研修カリキュラム【新生児科】

総合医療センター

【特徴】

当センターNICUは、小児医療センターや救命救急センターを有する総合病院の中のNICUとして、小児系、成人系を問わず多くの診療科との連携のもとに、あらゆるニーズを持った新生児を対象としている。具体的には、①産科との連携のもとに出生体重500g前後の超低出生体重児に対応、②小児の外科系診療科との連携のもとに新生児期に手術を要するあらゆる疾患に対応、③救命救急センターとの連携のもとに救命救急医療を要する妊婦から出生した新生児にも対応している。

当科で経験することの少ない中等症の新生児内科疾患に関しては、研修期間中に地域周産期母子医療センターである住吉市民病院をローテートすることによって経験を積む。さらに新生児科は小児科のサブスペシャリティーであり、新生児専門医の取得には小児科専門医の取得が必須であることを鑑みて、研修期間中に小児内科系の各科へのローテーションも組み入れている。

このカリキュラムに基づいて研修することで、あらゆるジャンルの新生児疾患を経験でき、3年間のレジデント終了時には日本小児科学会小児科認定医の受験資格を得ることができ、さらに3年間のシニアレジデント終了時には、日本周産期新生児医学会の新生児専門医の受験資格を得ることができる。

【研修目標】

１．一般目標

健常新生児と病的新生児の診療を行い、助言を提供する新生児医療の専門家となるために以下の知識と技能を習得することが必要である。

(1) 胎児、新生児の成長、発達の正常および異常な側面について生理学的、病理学的に理解し知識を有している。
(2) 産科的、内科的、外科的合併症とそれらが母体、胎児、新生児に与える影響について理解している。
(3) 合併症を有する新生児の診断と治療に対する最新の専門的知識と技能を有している。
(4) ハイリスク新生児の長期予後に関する知識と健康審査の技能を有している。

２．行動目標

(1) ハイリスク妊娠・分娩、母体搬送、ハイリスク胎児に関して理解し説明することができる。
(2) 健常新生児の生理と成長、発達を理解し説明することができる。
(3) 病的新生児の病態を理解し、それを診断し対処することができる。
(4) 母子相互作用ならびに母乳保育の重要性について理解し説明することができる。
(5) 周産期医療体制について理解し説明することができる。
(6) 病的新生児の全身管理ならびに集中治療が行える。
(7) 正常児と異常児の分娩に立会い、新生児に適切な処置が行える。
(8) 新生児搬送を行うことができる。
(9) 健常児の乳児健診が行える。
(10) 健全な母子関係の形成と確立を支援することができる。
(11) ハイリスク児のフォローアップが行える。
(12) 家族への面接技術を体得している。
(13) 疾患の説明技術を体得している。
(14) 家族の心理を理解し支援することができる。
(15) 母体・胎児・新生児・家族についての生命倫理を理解し説明できる。
(16) レジデント終了時に日本小児科学会小児科専門医を取得するための要件を満たす。
(17) シニアレジデント終了時に日本周産期新生児医学会新生児専門医を取得するための要件を満たす。

【方略】

(1) 患者の状態を把握し、毎日の午前と夕方のNICU回診に参加することによって、病態の理解を深めるとともに治療法を習得する。
(2) NICU治療を要する患者に対する処置や診療手技を指導医のもとに習得する。
(3) 上級医とともにハイリスク新生児の出生が予想される分娩立会や新生児搬送に参加して対処法を習得する。
(4) NICU当直を行い、夜間や時間外の緊急事態に対応できる能力を養う。
(5) 新生児科抄読会ならびにレジデント輪読会に参加し、英文医学誌や英文教科書を読むことによって最新の医学知識を得るとともに英語力を強化する。
(6) 臨床研究に従事して、成果を全国学会で発表して論文執筆も行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

〔レジデント〕

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
小児科系専門科を ローテート	小児科系専門科を ローテート	新生児科※

※ 希望があれば、集中治療部、救命救急部など他科研修も考慮する。

〔シニアレジデント〕

1年目（卒後6年目）	2年目（卒後7年目）	3年目（卒後8年目）
新生児科	新生児科	新生児科

【見学等問い合わせ先】

新生児科部長　　市場　博幸